



- **第6次富士宮市総合計画策定の経緯・経過**  
.....
- **総合計画策定体制図**  
.....
- **総合計画諮問・答申**  
.....
- **富士宮市総合計画審議会条例**  
.....
- **富士宮市総合計画審議会委員名簿**  
.....
- **市民参画プログラム**  
.....
- **私のまちの未来想像会議**  
.....
- **地区別懇談会**  
.....
- **団体活動に関するアンケート調査**  
.....
- **市民提案**  
.....
- **パブリック・コメント**  
.....
- **人口ビジョン（抜粋）**  
.....

## 第6次富士宮市総合計画策定の経緯・経過

令和5年度		
R5.6.21	政策会議	策定方針の決定
R5.12.21	第1回策定会議	策定方針の確認
R5.12.27	第1回ワーキング幹事会・ワーキンググループ合同会議	基本的な考え方、策定組織体制、策定スケジュールの確認
R6.2.1~ R6.2.23	市民アンケート	3,000人対象、回収数1,745件、回答率58.2%（内訳：郵送回答1,238件、WEB回答507件）

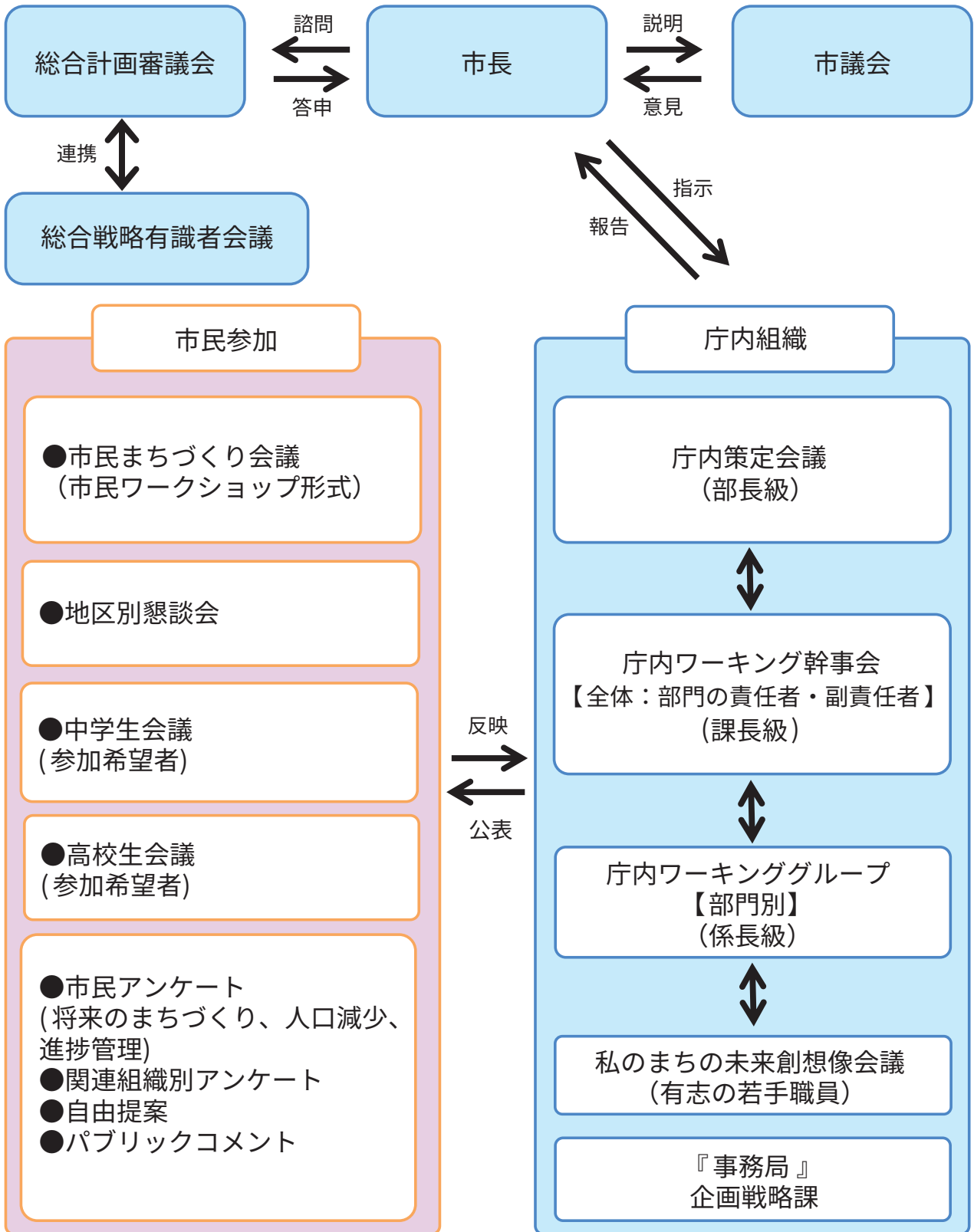
令和6年度		
R6.4.19~ R6.5.13	人口減少に関するアンケート	2,000人対象、回収数828件、回答率41.4%（内訳：郵送回答330件、WEB回答498件）
R6.4.23	第1回ワーキング幹事会・ワーキンググループ合同会議	基礎調査・市民アンケート結果の共有、策定スケジュールの確認
R6.5.27	第2回策定会議	基礎調査・市民アンケートの結果の検証、計画内容と体系の検討
R6.6.1	中学生会議	市内各校から中学生28人が参加 「富士宮市で実現したい理想の暮らしから考える富士宮市の将来像」を検討
R6.6.21~ R6.9.27	地区別懇談会	対象：125区 5回開催
R6.6.22	高校生会議	市内各校等から高校生24人が参加 「富士宮市での理想の暮らし/富士宮市との理想の関わり方」を検討
R6.6.25	第1回私のまちの未来想像会議	市の若手職員28人が参加 「富士宮市でできること・できないこと」を検討
R6.7.27	第1回市民ワークショップ	市民25人が参加 「若い世代の将来の希望を叶える」ための方策を検討
R6.8.7	第2回私のまちの未来想像会議	市の若手職員21人が参加 「富士宮市に来る人・住み続ける人・出ていく人」を検討

R6.8.26~ R6.9.30	団体活動に関するアンケート	市内の関連団体85団体対象、回収数45件 回答率52.9%（内訳：郵送回答25件、WEB回答20件）
R6.8.31	第2回市民ワークショップ	※台風の接近により中止
R6.9.2	第3回ワーキング幹事会・ワーキンググループ会議	総合計画の体系について確認 政策検討シートの作成依頼
R6.9.13	第3回私のまちの未来想像会議	市の若手職員27人が参加 「市民の定住や市外からの転入（Uターン含む）に必要な取組」を検討
R6.9.25	第3回策定会議	各種市民会議の結果報告、人口ビジョン策定に向けたシミュレーション
R6.9.27	第4回私のまちの未来想像会議	市の若手職員25人が参加 「富士宮市で叶える将来の市民のWell-Beingな暮らし」を検討
R6.9.28	第3回市民ワークショップ	市民45人が参加 「富士宮市の魅力を再発見する」ことをテーマに検討
R6.10.1~ R6.10.31	市民提案	提案件数 8件
R6.10.26	第4回市民ワークショップ	市民34人が参加 「富士宮市らしい新たな幸せな暮らしを考える」ことをテーマに検討
R6.11.30	第5回市民ワークショップ	市民27人が参加 「まちづくりのキャッチコピー」を検討
R6.12.20	第4回ワーキング幹事会・ワーキンググループ会議	総合計画の体系について検討、第2次政策検討シートの作成依頼
R6.12.26	第4回策定会議	各種市民会議棟の結果報告、将来目標人口、土地利用構想の検討
R7.3.28	第5回策定会議	基本構想（案）の検討

令和7年度		
R7.4.9	第5回ワーキング幹事会・ワーキンググループ会議	基本構想（案）の検討
R7.5.13	第6回策定会議	基本構想（案）の検討
R7.5.28	市議会全員協議会	策定方針、市民アンケート、懇談会等での意見等の説明
R7.5.31	第6回市民ワークショップ	市民18人が参加 富士宮市の重点的な取組を検討
R7.6.17	第1回審議会	市長から審議会への諮問、計画策定方針及びスケジュール、基本構想（案）の概要の説明
R7.7.4	第7回策定会議	審議会委員からの意見・要望の確認、序論・基本構想（案）の検討
R7.7.15	第2回審議会	序論・基本構想（案）の審議
R7.8.6	第8回策定会議	議会・審議会委員からの意見・要望の確認、前期基本計画（案）の検討
R7.8.19	第3回審議会	前期基本計画（案）基本目標1～4の審議
R7.8.26	市議会全員協議会	各会派からの意見等に対する対応、序論・基本構想（案）、前期基本計画（案）の説明
R7.8.27	第9回策定会議	前期基本計画（案）の審議、土地利用計画（案）の検討
R7.9.9	第4回審議会	前期基本計画（案）基本目標5～7、重点プロジェクト、土地利用計画の審議
R7.9.25	第10回策定会議	前期基本計画（案）の検討
R7.9.29～ R7.10.28	パブリック・コメント	意見件数62件
R7.10.1～ R7.10.16	総合計画進捗管理のための市民アンケート	2,000人対象、回収数1,326件、回答率66.3%（内訳：郵送回答728件、WEB回答598件）
R7.10.7	市議会全員協議会	各会派からの意見等に対する対応、前期基本計画（案）の説明
R7.10.8	第5回審議会	総合計画（案）、答申（案）の審議
R7.10.21	審議会正副会長会議	答申（案）の最終確認

R7.10.29	答申	審議会会長から市長へ答申
R7.12.1	第6次富士宮市総合計画基本構想審査特別委員会	市議会へ説明
R7.12.5	市議会による議決	全会一致で原案のとおり可決

# 総合計画策定体制図



富企第73号  
令和7年6月17日

富士宮市総合計画審議会  
会長 鈴木 誠 様

富士宮市長 須藤 秀忠

## 第6次富士宮市総合計画（案）について（諮問）

令和8年度から令和17年度までの富士宮市の新たな指針として、別冊のとおり第6次富士宮市総合計画（案）を立案しましたので、富士宮市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、これを諮問いたします。

令和7年10月29日

富士宮市長 須藤 秀忠 様

富士宮市総合計画審議会  
会長 鈴木 誠

## 第6次富士宮市総合計画（案）について（答申）

令和7年6月17日付け富企第73号で諮問のありました「第6次富士宮市総合計画（案）」について、本審議会においてこれまでに5回にわたる会議を重ね、慎重に審議を行った結果、第6次富士宮市総合計画（案）は概ね妥当であるとの結論を得たので答申いたします。

なお、市長におかれましては、この答申及び審議過程で各委員から出された意見を十分踏まえた上で、第6次富士宮市総合計画を決定され、着実に推進されることを要望するとともに、この度の計画策定に当たり、①人口減少社会における都市活力の維持、②世界遺産富士山をはじめとする地域資源の保全と活用、③大規模自然災害等に対応した安全安心なまちづくりなどは、変わらず重要な課題であることから、官民がそれぞれ自らの役割を自覚し、自らの責任においてその役割を実践することにより、将来都市像である「富士山を心に 人の和と豊かな自然が織りなす 幸せ感じる富士宮」の実現に努められることを併せて付言いたします。

### 別添

- 1 第6次富士宮市総合計画（案）
- 2 富士宮市総合計画審議会議事録
- 3 第6次富士宮市総合計画（案）に係る意見・要望等

# 富士宮市総合計画審議会条例

## ○富士宮市総合計画審議会条例

昭和48年6月30日  
富士宮市条例第21号

(設置)

**第1条** 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、富士宮市総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

**第2条** 審議会は、市長の諮問に応じ、富士宮市総合計画に関する重要な事項について調査、審議し、意見の答申を行う。

(組織)

**第3条** 審議会は、委員40人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 関係行政機関の職員
- (2) 公共的団体等の役員及び職員
- (3) 知識経験者

(委員の任期)

**第4条** 委員の任期は、当該諮問に係る答申が終了する日までとする。

2 委員は、委嘱されたときにおける当該身分を失った場合は、その職を失う。

3 委員の再任は、妨げない。

(会長及び副会長)

**第5条** 審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

(会議)

**第6条** 審議会は、市長から諮問をうけたとき又は会長が必要と認めたときは、市長と協議して会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(部会)

**第7条** 審議会は、必要があると認める場合は、部会を設けることができる。

2 部会に属する委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから互選する。

(報酬等)

**第8条** 委員の費用弁償及び報酬並びに支給方法は、富士宮市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和45年富士宮市条例第12号)中、専門委員の規定を準用する。

(庶務)

**第9条** 審議会の庶務は、企画部企画戦略課で処理する。

(委任)

**第10条** この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

# 富士宮市総合計画審議会委員名簿

役職等	氏名	備考
富士宮市区長会連合会 会長	井口 晴道	
富士宮警察署 署長	岡田 幸司	
富士宮市消費者連絡協議会 副会長	森岡 恵美子	
富士宮市地域女性連絡会 会長	土屋 善江	
富士宮市環境審議会 委員	濱岡 節子	
静岡県富士農林事務所 所長	深野 智恵子	
富士森林組合 代表理事組合長	佐野 和義	
特定非営利活動法人ホールアース自然学校	小野 亜季子	
富士宮市社会教育委員（生涯学習委員会委員）	佐野 契子	
NPO法人富士宮市スポーツ協会 会長	渡邊 徳一	
富士宮市校長会 代表	岩垣 俊哉	
富士宮市文化連絡協議会 会長	加納 永子	副会長
社会福祉法人富士宮市社会福祉協議会 会長	太田 精一	
富士宮市PTA連絡協議会 会長	荻 真教	
静岡県富士健康福祉センター 所長	戸塚 康史	
児童クラブ育成会 代表	佐野 智史	
富士宮商工会議所 会頭	河原崎 信幸	
公益社団法人富士宮市観光協会 会長	石田 寛二	
富士宮地区労働者福祉協議会 会長	飯室 憲一	
富士伊豆農業協同組合富士宮地区本部 地区本部長	佐野 和希	
富士宮市都市計画審議会 委員	渡井 政行	
国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所 事務所長	光永 健男	
静岡県富士山世界遺産センター 副館長	石川 哲史	
静岡県富士土木事務所 所長	佐藤 雅史	
富士宮信用金庫 理事長	伊藤 壽文	
静岡銀行富士宮支店 支店長	田中 正男	
静岡県東部地域局 局長	市川 顯	
市民まちづくり会議メンバー	森谷 健久	
市民まちづくり会議メンバー	鍋島 安佐子	
市民まちづくり会議メンバー	金子 充子	
愛知大学 教授	鈴木 誠	会長

計 31 人

# 市民参画プログラム

## 1 中学生会議

次世代を担う若い世代が考える富士宮市のまちづくりに対する考えを把握するため、市内中学生に対するアンケート調査と、市内中学校の代表生徒が参加するワークショップを開催しました。

### (1) 中学生アンケート調査

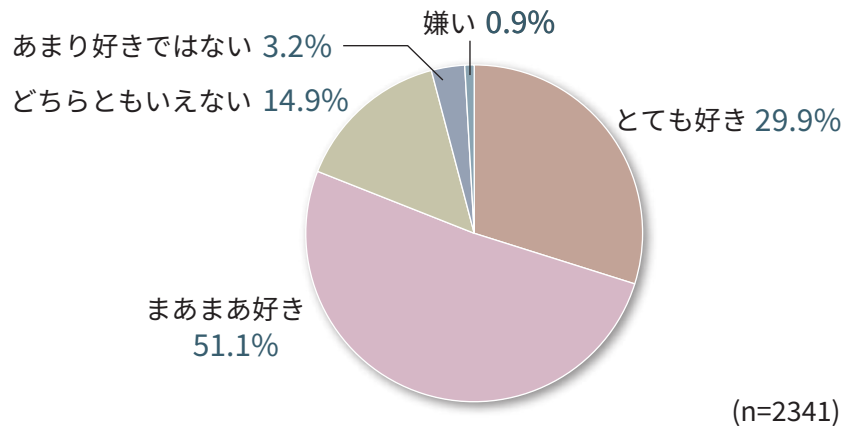
#### 概要

- 対象：市内の全ての中学校の在校生
- 調査方法：各中学校に依頼し、タブレット等によりオンラインで回答を収集
- 調査期間：令和6年4月22日から5月17日
- 有効回答数：2,341件

#### 調査結果

##### ■ 富士宮市への好意

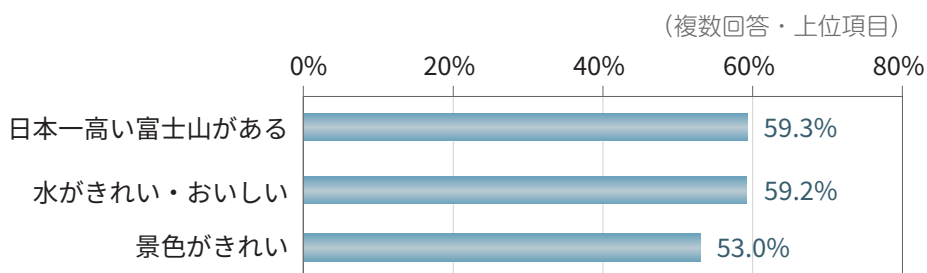
富士宮市が「とても好き」は29.9%、「まあまあ好き」を合わせると81.0%となり、ほとんどの中学生は富士宮市を好きだと思っています。



資料：富士宮市「中学生アンケート調査（令和6年4～5月）」

## ■ 富士宮市の好きなところ

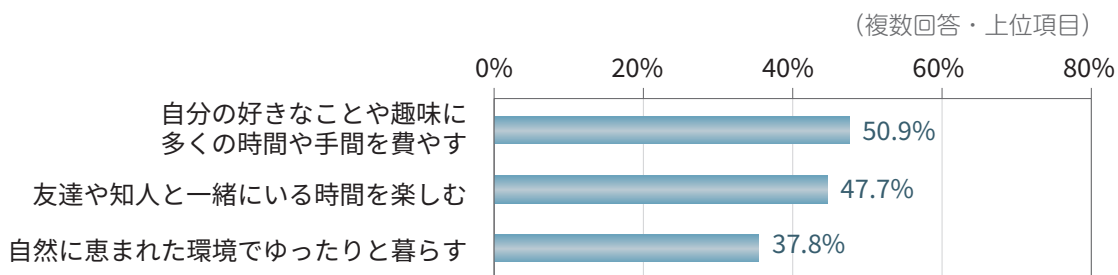
「日本一高い富士山がある」や「水がきれい・おいしい」が約60%、「景色がきれい」が50%を超えており、半数以上の中学生が好きなところとして挙げています。



資料：富士宮市「中学生アンケート調査（令和6年4～5月）」

## ■ 将来（10～20年後）希望する富士宮市での暮らし方

「自分の好きなことや趣味に多くの時間や手間を費やす」や「友達や知人と一緒にいる時間を楽しむ」、「自然に恵まれた環境でゆったりと暮らす」が上位3項目となっています。



資料：富士宮市「中学生アンケート調査（令和6年4～5月）」

## (2) 中学生会議ワークショップ

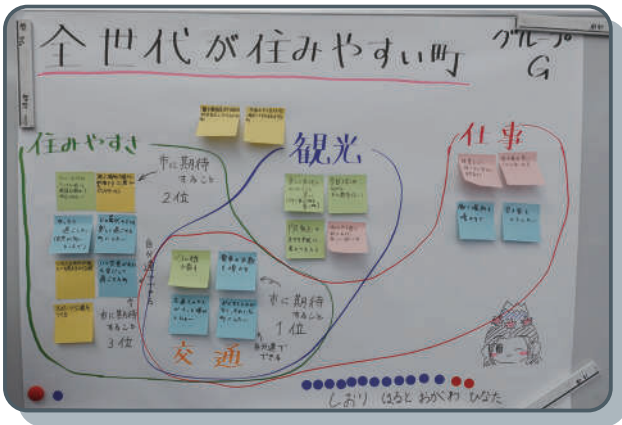
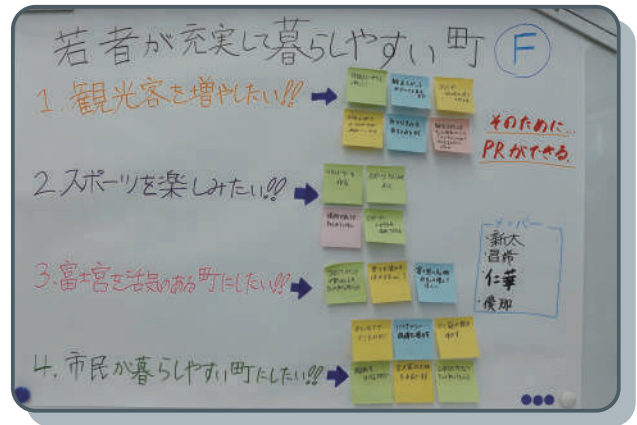
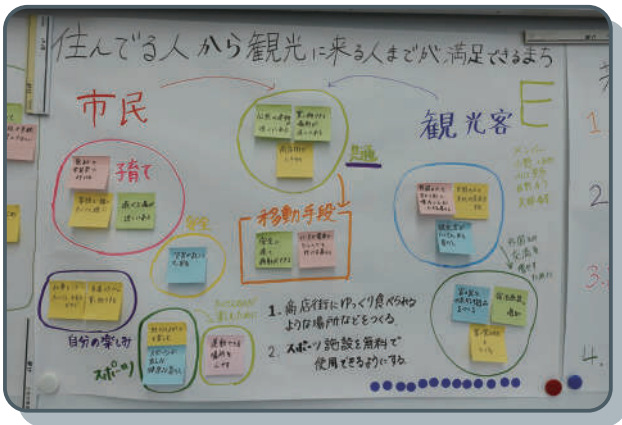
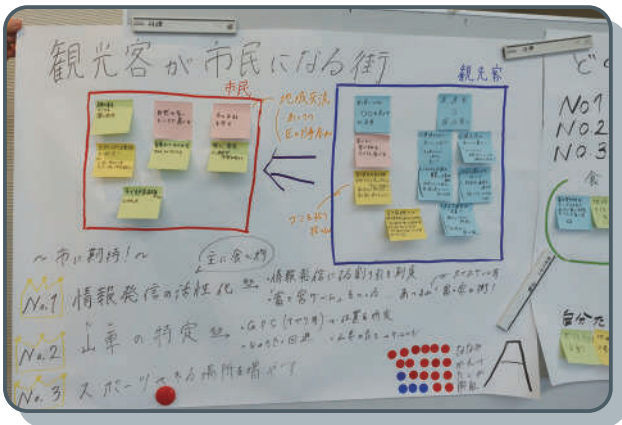
### 概要

- 参加対象：中学生のうち参加を希望する生徒
- 実施方法：ワークショップ形式によるグループ討議
- テーマ：「富士宮市で実現したい理想の暮らしから考える富士宮市の将来像」
- 開催時期：令和6年6月1日 午前9時から正午（3時間）
- 参加者数：28人

### ○ 中学生会議ワークショップの集合写真・活動の様子



# ○ 中学生会議ワークショップ成果



序論

基本構想

前期基本計画

資料編

## 2 高校生会議

次世代を担う若い世代が考える本市のまちづくりのあり方について意見・提案してもらうため、市内高校に通う生徒を対象とするワークショップを開催しました。

### 概要

- 参加対象：市内在住または市内の高校に通う高校生
- 実施方法：ワークショップ形式によるグループ討議
- テーマ：「富士宮市での理想の暮らし/富士宮市との理想の関わり方」
- 開催時期：令和6年6月22日 午前9時から正午（3時間）
- 参加者数：24人

### ○ 高校生会議ワークショップの集合写真・活動の様子





### 3 総合計画市民ワークショップ

主に将来都市像や重点プロジェクト等の検討に資するキーワード・キーセンテンスを収集するため、市民ワークショップを開催しました。

#### 概要

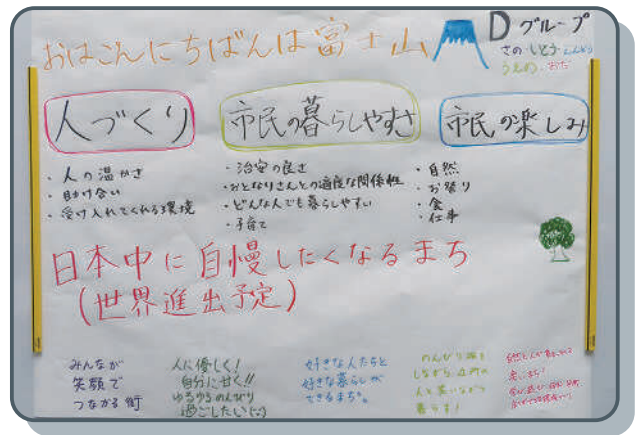
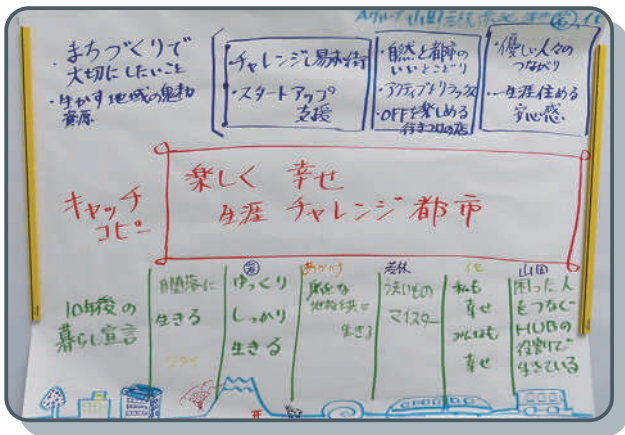
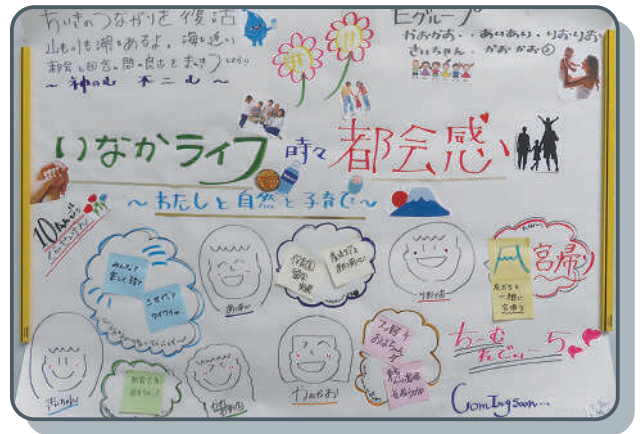
- 参加対象：市民アンケートの回答者（アンケートで参加意向を示した人）
- 実施方法：ワークショップ形式によるグループ討議。
- 開催時期：令和6年7月～令和7年5月（全6回）  
※第2回は台風の接近により中止
- 各回の開催テーマと参加者数

回	開催日	テーマ	参加者数
第1回	R6.7.27	若い世代の将来の希望を叶える ○中学生・高校生会議による提案の実現方策を検討する ○参加者ができることを検討することで、市民がまちづくりに貢献できることを認識してもらう	25人
第2回	R6.8.31	※中止	—
第3回	R6.9.28	富士宮市の魅力を再発見する ○富士宮市のナンバーワン・オンリーワンの魅力を洗い出してもらう ○富士宮市の地域資源とその具体的な価値を参加者で共有する	45人
第4回	R6.10.26	富士宮市らしい新たな幸せな暮らしを考える ○第3回で抽出した魅力を踏まえて、富士宮市ならではの現在の暮らしの魅力を言語化する ○こどもたちに伝える、訪れた人に知ってもらいたい視点から検討する	34人
第5回	R6.11.30	まちづくりのキャッチコピーを考える ○これまでに検討した魅力や幸せな暮らしをもとに、まちづくりのキャッチコピーを検討する ○重要なキーワードを検討し、そこからキャッチコピーを考えてもらう	27人
第6回	R7.5.31	富士宮市の重点的な取組を考える ○基本方針をテーマに、必要な取組や取組の実施者、取り組むうえで大切にすべきことや配慮すべきことについて検討する	18人

## ○市民ワークショップの集合写真・活動の様子







序論

基本構想

前期基本計画

資料編

## 私のまちの未来想像会議

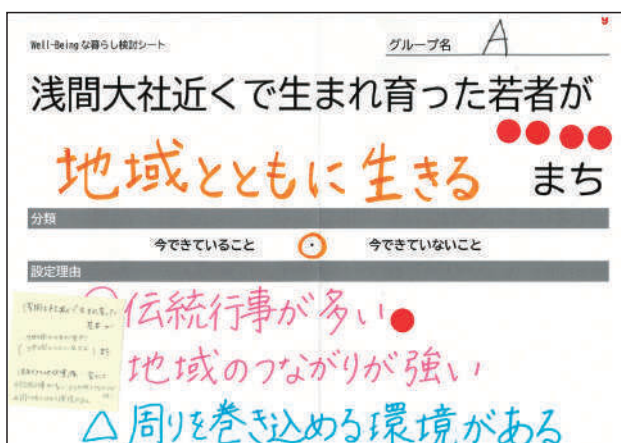
主にバックカスティングの視点から「将来都市像」や「重点プロジェクト」等の検討に資するキーワード・キーセンテンスを収集するため、市役所の若手職員を中心としたプロジェクトチームにより検討を行いました。

### 概要

- 参加対象：主に事務員、主事、主査級（1～3級）の職員 28人（各回5～6グループで開催）
- 実施方法：ワークショップ形式によるグループ討議
- 開催時期：令和6年6月～9月（全4回）
- 各回の開催テーマとねらい

回	開催日	テーマ	参加者数
第1回	R6.6.25	富士宮市でできること・できないこと ○ 富士宮市で生活していく付加価値を言語化する（魅力的な資源を大量に発掘する）	28人
第2回	R6.8.7	富士宮市に来る人・住み続ける人・出ていく人 ○ 定住者・転入者・転出者の特徴を整理する	21人
第3回	R6.9.13	市民の定住や市外からの転入（Uターン含む）に必要な取組 ○ 総合戦略の施策候補となる取組を検討する ⇒第1・2回の検討結果をもとに考える	27人
第4回	R6.9.27	富士宮市で叶える将来の市民のWell-Beingな暮らし ○ 将来実現したい暮らしは政策により達成される成果をイメージするものであり、将来都市像に繋がるキーワードを抽出する	25人

## ○私のまちの未来想像会議の主な成果



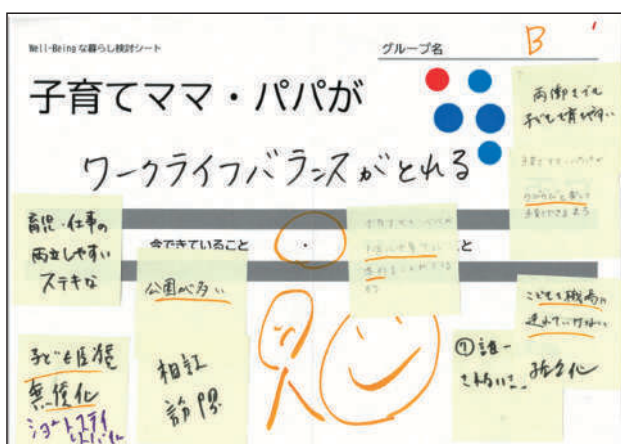
### 「浅間大社近くで生まれ育った若者」が「地域とともに生きる」まち

#### 今できていること

- 伝統行事が多い。浅間大社関連のお祭りだけでなく、商店街のお祭り（宮町祭り等）が多い。
- 地域のつながりが多い。「この人とこれができるからこの場所に住んでいる」という人もいる。

#### 今できていないこと

- コミュニティから少しでも離れた場所に住んでいる人が気軽に入れにくい／入り方が分からないケースが多い。
- 地域の活動を発信できる環境があると良い。



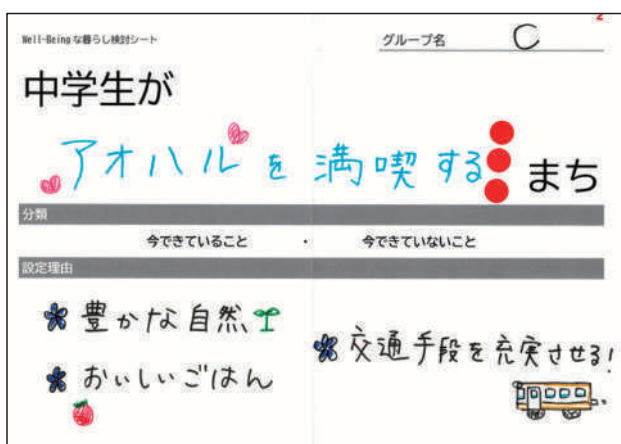
### 「子育てママ・パパ」が「ワークライフバランスがとれる」まち

#### 今できていること

- 最近公園が多くできて自然豊かである。
- 福祉面においても、市内の子育て相談や検査訪問といった制度が充実している。
- 子育てに疲れた時の「ヘルパー対応」等のサービスも増えている。

#### 今できていないこと

- 「臨時情報」等の有事にこどもの預かり場所に困る。
- 親が孤立してしまうと相談できなくなり困ってしまう。相談体制を充実させていく必要がある。



### 「中学生」が「アオハルを満喫する」まち

- 小学生のうちは近所の公園等で遊ぶ。高校生は電車に乗って市外に出かけることができる。イオンしか遊べる場所がない。
- 南北は自然豊かでスイーツもおいしいが、北部までの交通手段がない。
- 宮バスを充実させる、モデルプランを作るなど、今ある資源を上手く組み合わせて、モデルプランを考えることで、今ある資源を組み合わせ満喫できると良い。

Well-Beingな暮らし検討シート

グループ名 **D**

**浅間大社近くで生まれ育った若者が**  
**歴史・文化に誇りをもちまち**

分類

設定理由

今できていること

今できていないこと

・地元の人が一帯を  
 なつて盛りあげてお祭りの  
 ・富士山信仰の歴史  
 →世界遺産  
 ・地酒・地ビール

・わけそば  
 ・神田川  
 ・清流  
 ・湧水

富士宮  
 マスター  
 検定

## 「浅間大社近くで生まれ育った若者」が 「深い歴史・光る文化に誇りを持てる」まち

### 今できていること

- 一体となって盛り上げる祭りがある。
- 富士山振興をインプットする機会はあるが、アウトプットする場面がない。
- 「富士宮マスター検定」等があると良い。検定という肩書を持つことで、自分の誇りを語れるようになると良い。

Well-Beingな暮らし検討シート

グループ名 **E**

**グルメで一発当てたい人が**  
**富士山の水を生かして稼げるまち**

分類

設定理由

今できていること

今できていないこと

・富士山の豊富な水  
 ・豊富な食資源  
 ・「食のまち」の風土

## 「グルメで一発当てたい人」が 「富士山の水を生かして稼げる」まち

### 今できていること

- 食資源がそろっている。
- 食のまちフードバレーがある。
- 名産品、スイーツグルメを作ってもらおう。
- 名物になれば、ふるさと納税の返礼品に繋がる。稼げるまちになると良い。

Well-Beingな暮らし検討シート

グループ名 **F**

**70歳ひとり暮らし女性が**  
**丁寧な暮らしを実現するまち**

分類

設定理由

今できていること

今できていないこと

・自然に囲まれ、住民の気質がのんびりとしている。  
 ・土地の高低差により地産物が多く、旬のものを食べることができる。  
 ・貸し畑が多くあり、自分で野菜を育てることが出来る。

## 「70歳ひとり暮らし女性」が 「丁寧な暮らしを実現する」まち

### 今できていること

- 「丁寧な暮らし」に定義はないが、「自然を大切にしながら日々の暮らしをゆったり過ごすイメージ」で考えた。
- 住民がのんびり過ごしている。
- 旬の食材を食べられる。
- 農地があり自分で野菜を育てることができる。
- 年を取ると、花を愛でなくなったり、野菜を育てなくなったりすると聞いたことがある。

## 地区別懇談会

地域の現状と課題を把握するとともに、市政に対する要望を聴取するため、各自治会の区長を対象とするグループインタビューを実施しました。

### スケジュール

開催日	会場	対象地区	参加者数
R6.6.21	芝川公民館	芝川地区	18人
R6.7.2	市役所特大会議室	大宮東地区・大宮中区	24人
R6.7.26	上野会館	上野地区・北山地区・上井出地区・白糸地区	22人
R6.8.7	大富士交流センター	大富士地区・富士根南地区・富士根北地区	27人
R6.9.27	市役所特大会議室	大宮西地区・富丘地区	17人

### テーマごとの主な意見

<b>テーマ ①</b> 地域の現状と課題について	高齢者世帯の増加による自治会の役員の担い手不足、自治会からの脱会 少子高齢化、狭あいな道路、空き家対策
<b>テーマ ②</b> 今後、地域で取り組みたいこと	要支援者の避難を迅速におこなうための名簿作成、空き家対策
取り組むにあたって課題として想定されること	地域活動における高齢化、地区の祭典の継続

#### テーマ ③ 富士宮市のまちづくりに期待すること

分野	項目	把握した主な意見の論点
環境	地球環境	○カーボンクレジット導入による市の魅力向上 ○太陽光発電施設の適正管理
	生活環境	○ごみの清掃・回収問題への対応
	自然環境	○山林の適切な管理の徹底
産業	農林水産業	○農地の活用（耕作放棄地対策、宅地への転用など） ○耕作放棄地のスポーツ公園などへの転用
	工業	○企業誘致への取組
	商業	○世界遺産センター、浅間大社等を活用した商店街活性化 ○歩けるまちづくりに資する商店街活性化
	観光	○富士山景観の活用（沿道草刈りなど） ○宿泊施設の整備
	労働・雇用	○若者の働く場所の確保

分野	項目	把握した主な意見の論点
健康福祉	子育て	○ こどもの学費等に対する補助
	医療	○ 緊急手術を執刀できる外科医の招致 ○ 産婦人科の維持・誘致
教育文化	スポーツ・レクリエーション	○ 高齢者向けスポーツ施設の整備 ○ スポーツをテーマとしたまちづくりの推進
都市整備	市街地整備	○ アパート・マンションの乱開発の抑制 ○ 調整区域の市街化編入による宅地整備
	幹線道路・交通網	○ 幹線道路拡幅によるアクセス性向上 ○ 都市計画道路の整備推進
	生活道路	○ 道路の拡幅 ○ ボトルネック交差点の解消
	景観	○ 富士山のビューポイントの情報発信 ○ 富士山が見えないときの世界遺産センターのサービス提供
	治山・治水	○ 浸水区域対策 ○ 富士山の噴火対策
市民生活	防災	○ 実際の災害を想定した防災訓練の実施 ○ 災害対策に対する市の支援
	消防	○ 救急車両の拡充
	防犯	○ 駐在の増員など防犯対策 ○ 交番の地域巡回の充実
	公共交通	○ 公共交通機関の充実 ○ バス停へのアーケード型ベンチの設置
	住宅・住環境	○ 移住・定住対策としての市営住宅の整備 ○ 道路、学校、医療、公共交通などの充実
	コミュニティ活動	○ 区民館の有効活用 ○ 地域課題の相談窓口となる団体の明確化
	消費生活	○ 移動販売の継続実施
市民参加・ 行財政	地方創生	○ 婚活イベント等の開催 ○ 移住者による空き家、商店街の活用
	市民協働	○ まちづくりに関する市民と行政の対話促進 ○ 富士山と浅間大社を活かしたまちづくり
	行政運営	○ 住民サービスの利便性向上 ○ 市中心部への行政機関の集約
その他		○ 計画の進捗状況の提示 ○ 住民説明会等におけるネガティブではなくポジティブな資料の提示

## 団体活動に関するアンケート調査

市内の関連団体の考えについて把握するため、アンケート調査を実施しました。

- 対象：市内の関連団体85団体
- 調査項目：活動分野、設置目的（設立の経緯）や存在意義、活動に際して大切にしていること、具体的な活動内容、「活動分野」に関連する考え、富士宮市の総合計画に対するご意見、10年後の目標や希望及び近い将来新たに取り組みたい活動及びそれに対する現状の課題
- 調査方法：調査票を郵送にて配布し、郵送又はオンラインにより回答を収集
- 調査期間：令和6年8月26日から9月30日
- 有効回答数：45件

## 市民提案

第6次富士宮市総合計画の策定にあたり、主に基本目標別計画における個々の施策の検討に活用するため、市民からの提案を収集しました。

- 募集内容：富士宮市のまちづくりに対する自由な意見・提案
- 対象：富士宮市民
- 提出方法：①電子申請（インターネット）  
②窓口へ直接提出  
③郵送  
④電子メール
- 実施期間：令和6年10月1日から10月31日
- 回答数：8件（環境1件、都市整備1件、市民生活2件、市政全般1件、その他3件）

## パブリック・コメント

第6次富士宮市総合計画（案）について、パブリック・コメントを実施し、市民等から意見を収集しました。

- 募集内容：第6次富士宮市総合計画（案）に対する意見
- 実施期間：令和7年9月29日から10月28日
- 意見数：62件

# 人口ビジョン（抜粋）

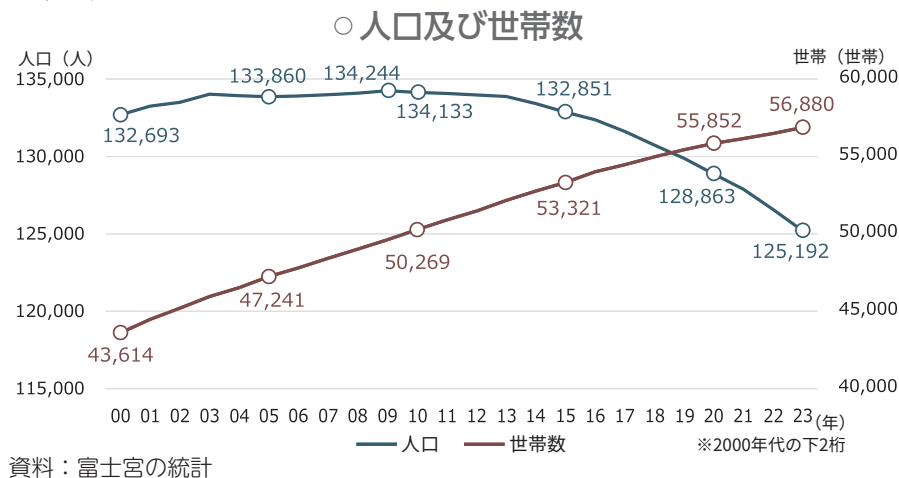
## 1 富士宮市の人口の推移

(1) 2009（平成21）年から14年間で人口は9,000人減少、近年は毎年1,000人ペースにまで拡大

全国的に人口減少期を迎えている中で、富士宮市の人口は2009（平成21）年の134,244人をピークに減少に転じて以降、しばらくは毎年100人程度、緩やかに減少していました。その後、人口減少のペースが大きくなり、2019（平成31）年に130,000人を割り込んでからは毎年の人口減少が1,000人前後にまで拡大、2023（令和5）年には125,192人となり14年前のピーク時から約9,000人減少しました。

一方、世帯数は右肩上がりでの増加を続けており、2023（令和5）年には56,880世帯となっています。

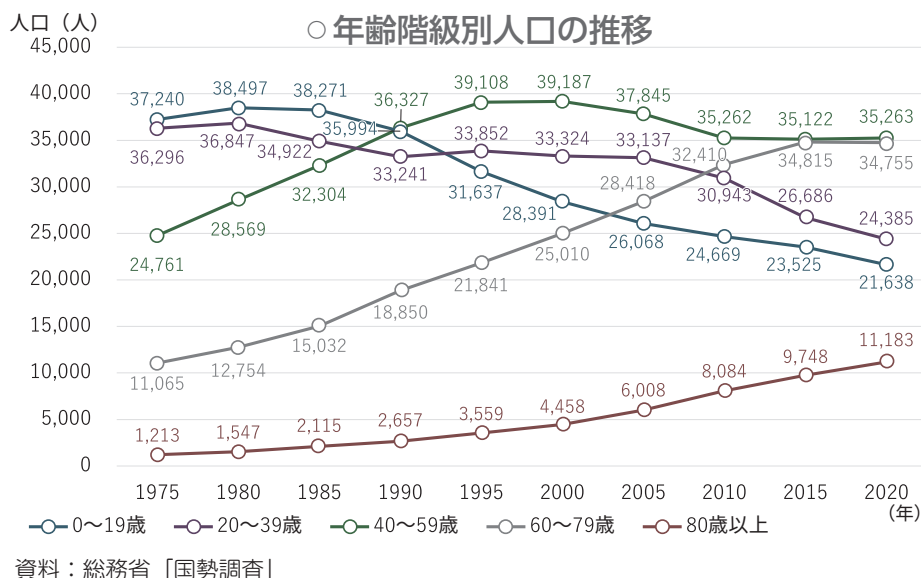
このような傾向を生じさせた要因として、市外からの単独世帯の転入や家族の成熟化を契機としたこどもの世帯分離が考えられます。



(2) 20～39歳人口の減少が著しい

富士宮市の人口を20歳ごとに分けてみると、年齢階級によって人口動態は大きく異なり、少子高齢化の状況が顕著に表れます。

富士宮市が人口減少に転じた2010（平成22）年以降では、20～39歳の減少が最も著しく、2020（令和2）年までの10年間で6,500人以上減少しています。これは富士宮市におけるこの間の人口減少の2/3以上を占めます。この年齢階級の人口減少は、出生数の減少に直結することから、今後、更なる人口減少が危惧されます。また、0～19歳も10年間で約3,000人減少しており、富士宮市の労働や地域活動の担い手の不足が懸念されます。



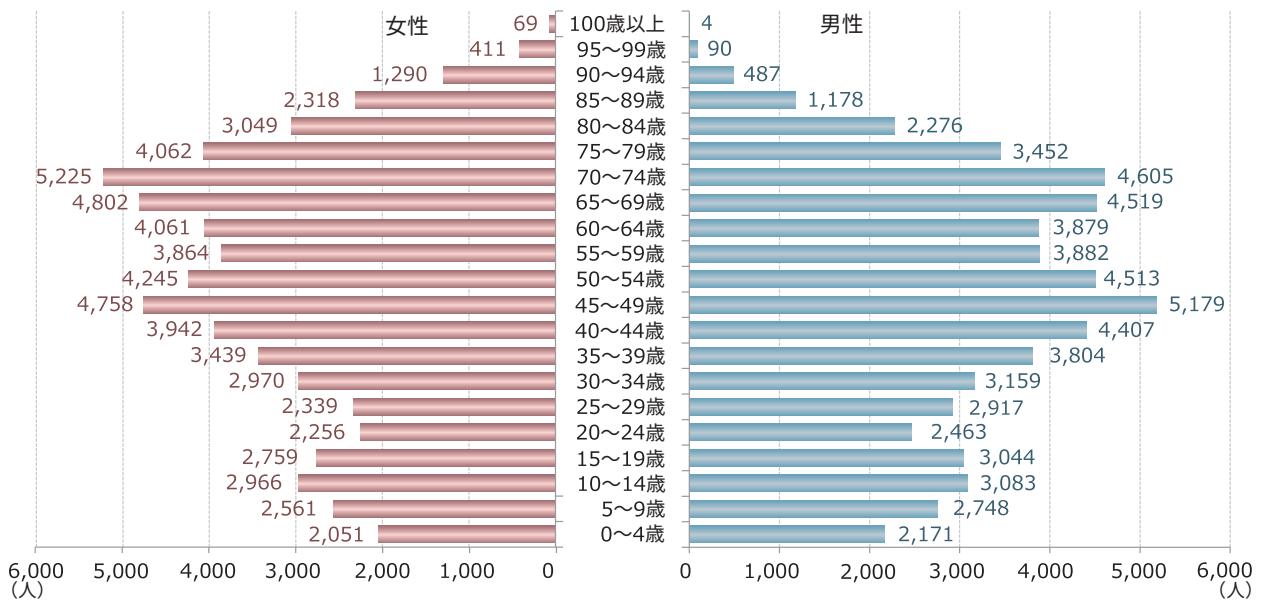
### (3) 0～4歳人口は団塊世代・団塊ジュニア世代の半数以下となり、つぼ型の人口ピラミッドを形成

富士宮市の人口ピラミッドは男女により若干傾向が異なり、男性は団塊ジュニアと呼ばれる世代(1970(昭和45)～75(昭和50)年生まれ)の多くを含む45～49歳人口が最も多く、女性は団塊世代(1947(昭和22)～49(昭和24)年生まれ)が含まれる70～74歳人口が最も多くなります。また、55～59歳までは男性が多く、それ以上の年代では女性が多くなります。

一方、0～4歳は男女とも2,000人余りとなり、45～49歳の半数以下にとどまります。また、10代に比べて20代の人口が少なく、この年代も45～49歳の半数以下となっています。

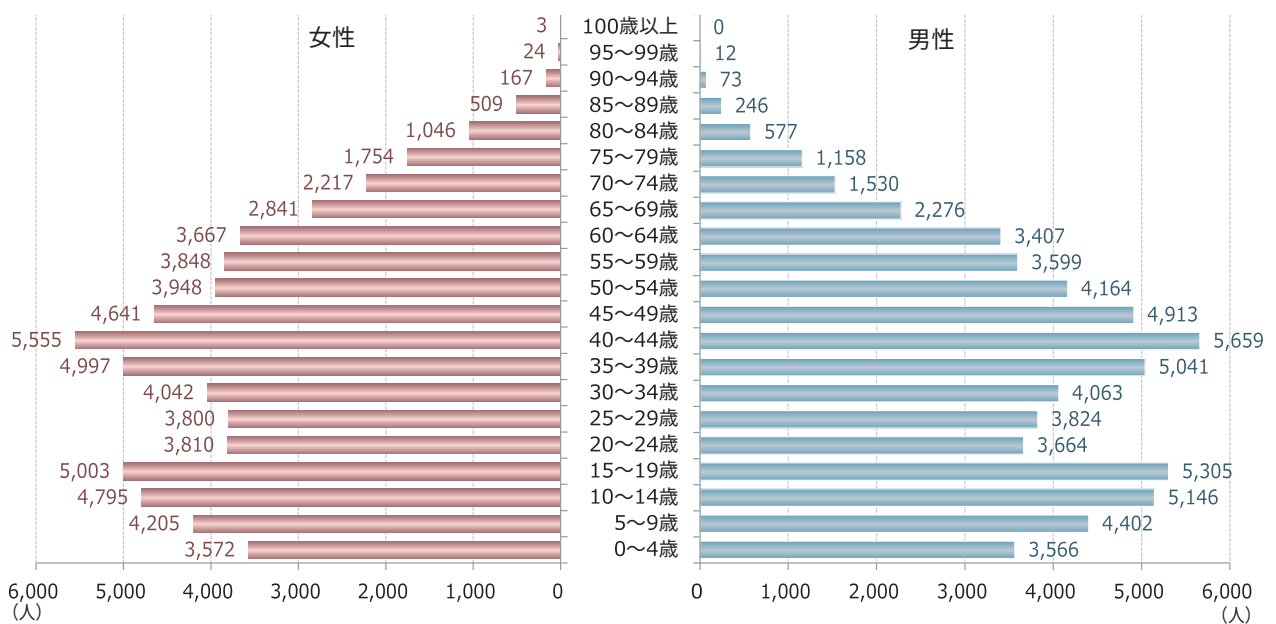
30年前である1990(平成2)年と比較すると、1990年代は「星型」と呼ばれる形状でしたが、若い年齢階級の人口の少ない「つぼ型」に変遷しており、少子高齢化の典型的な動向が表れています。

○男女別年齢5歳階級別人口(2020年)



資料：総務省「令和2年国勢調査」

○男女別年齢5歳階級別人口(1990年)

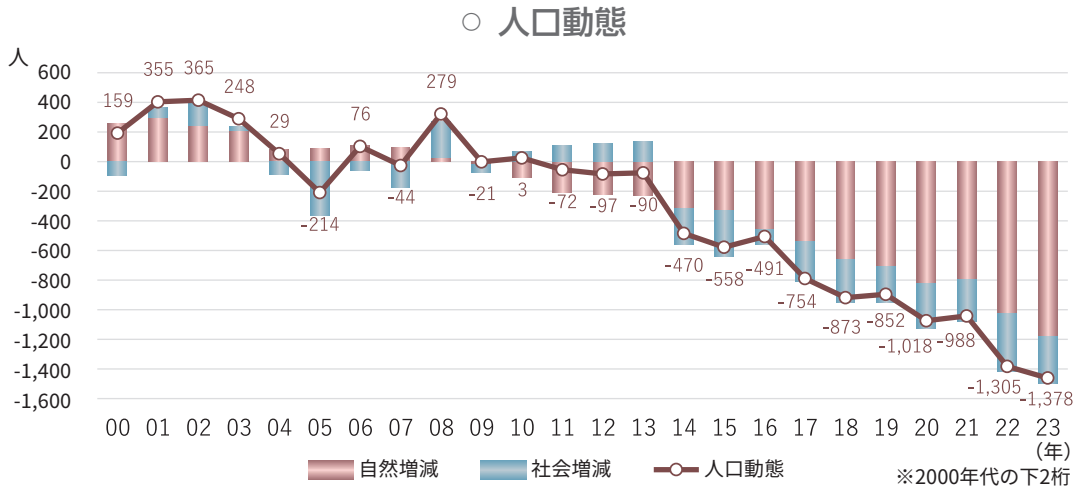


資料：総務省「平成2年国勢調査」

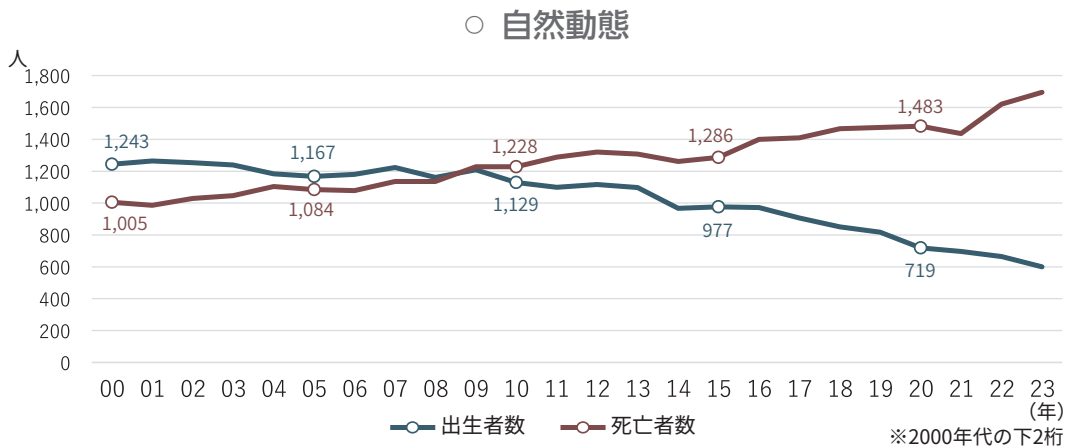
#### (4) 人口減少は出生減と死亡増が大きく影響、転入減も要因となっている

富士宮市の人口減少要因について、社会減に比べて自然減の影響が大きくなっています。自然減を出生と死亡に分けてみると、人口が減少に転じた2009（平成21）年は出生と死亡がともに約1,200人でしたが、出生は約600人にまで減少、死亡は約1,700人に増加し、両方が人口減少に影響しています。

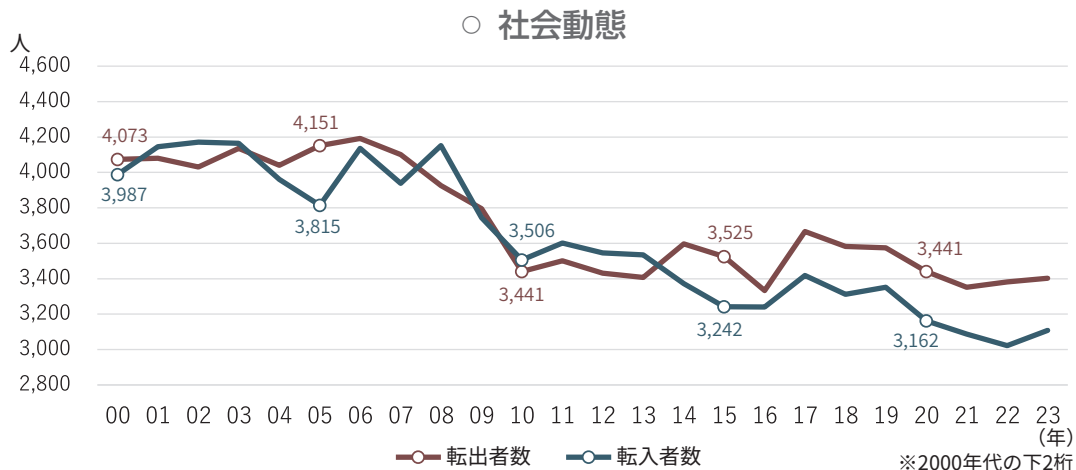
社会減について、2009（平成21）年以降、転出は概ね横ばいで推移している一方で、転入が減少しており人口減少の要因となっています。



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

## 2 目指すべき将来の方向

### (1) 富士宮市の人口減少の現状と課題（総括）

2019（平成31）年に富士宮市の人口が130,000人を割り込んで以降、毎年の人口減少は1,000人前後にまで拡大しています。その内訳をみると、20～39歳の減少の影響が最も大きく、市の人口減少の2/3以上を占めています。また、0～19歳の人口減少も著しいため、将来の労働力や地域活動の担い手の不足が懸念されます。

人口減少を要因別にみると、社会減に比べて自然減の影響が大きくなっていますが、出生の減少と死亡の増加の両方がともに影響しています。出生減については若い年齢での出産減少による影響が大きくなっていますが、経済的理由が晩婚化・晩産化を促進していると考えられます。

社会減について、転出は概ね横ばいで推移している一方で、転入が減少していることが減少拡大の要因となっています。男女ともに10代後半から20代前半にかけて転出超過傾向にあり、就職・進学を契機に富士市や静岡市、浜松市へ転出していることが想定されます。16～19歳で市外への転出を希望する人が約3割となり定住希望者を上回っており、進学・就職に伴う転出を裏付けるものとなっています。一方で、市内で従業する割合は20代が高く、以前と比較して地元の雇用創出力と若者の地元志向が高まっていることも推察されます。

20代後半になると男女ともに転入超過へと反転するものの、女性の傾向は弱く、男女に差が生じています。結果として、女性に比べて男性の割合が高くなり、晩婚・未婚男性の増加に繋がっていると予想されます。また、30歳を超えると純移動率はゼロに収束しており、数字上確認できるほどのU・Jターンによる転入はみられません。

### (2) 将来の人口見通し

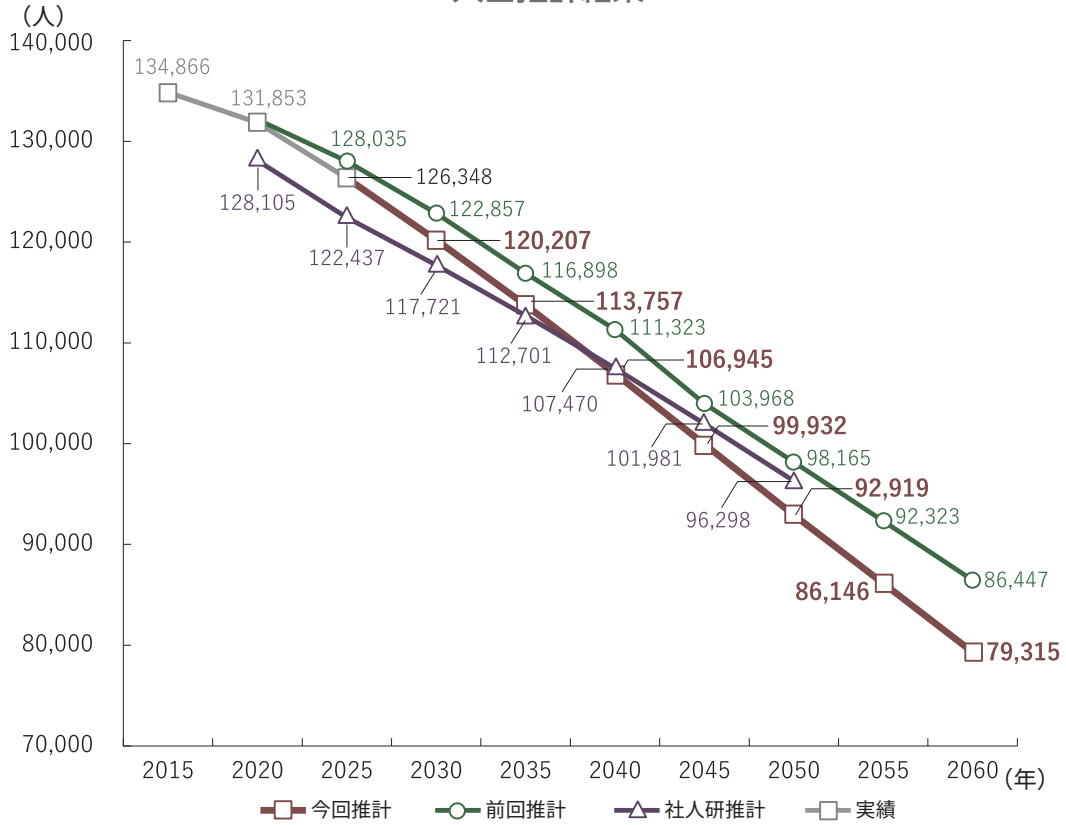
#### 将来人口推計によると、2035年までに産業や地域活動の担い手が10,000人以上減少

富士宮市の人口は、2025（令和7）年以降も減少をたどる見通しにあり、2035年は約113,800人となり、2025（令和7）年から10年間で約12,600人もの減少が予想されます。

年齢4階級別にみると、2025（令和7）年から2035年にかけて15～64歳（生産年齢人口）が約9,000人減少することが最大の特徴であり、産業や地域活動の担い手の大幅な不足が予想されます。0～14歳（年少人口）は約3,600人の減少で、10年間で3/4以下になる見通しです。

高齢者について、75歳以上（後期高齢者人口）は2030年以降に横ばいとなり、2050年に団塊ジュニア世代が後期高齢者になるまで増えない見通しです。65～74歳（前期高齢者人口）については、2035年までは減少傾向となるため、担い手不足を埋め合わせることは期待できません。

○ 人口推計結果

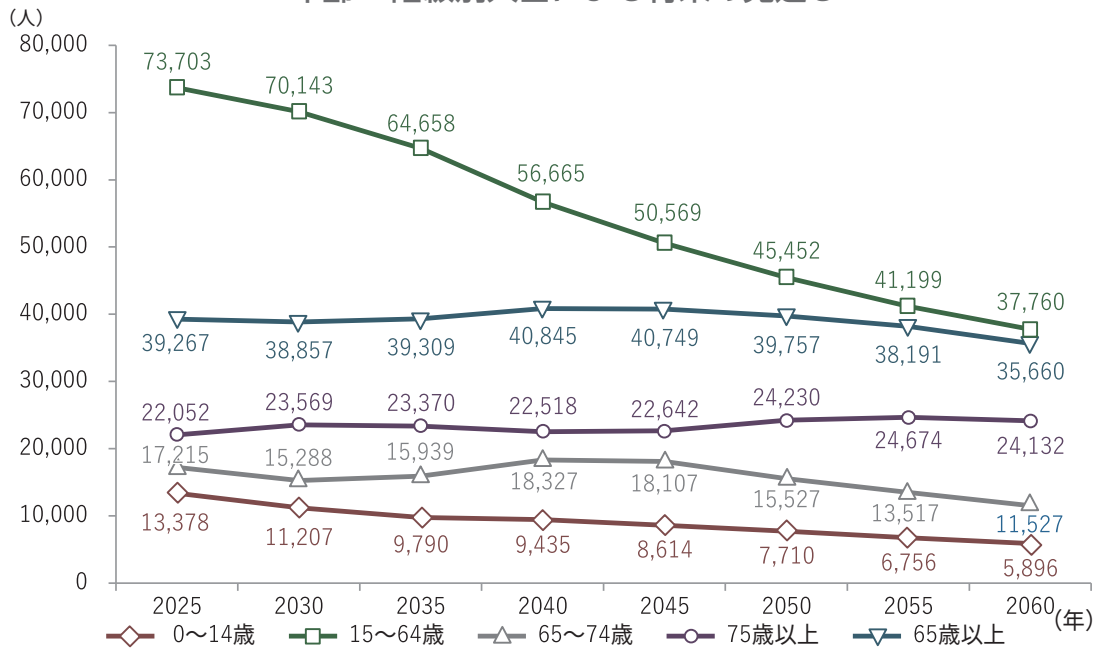


資料：2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は独自推計

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
今回推計	131,853	126,348	120,207	113,757	106,945	99,932	92,919	86,146	79,315
前回推計	132,166	128,035	122,857	116,898	111,323	103,968	98,165	92,323	86,447
社人研推計	128,105	122,437	117,721	112,701	107,470	101,981	96,298	-	-

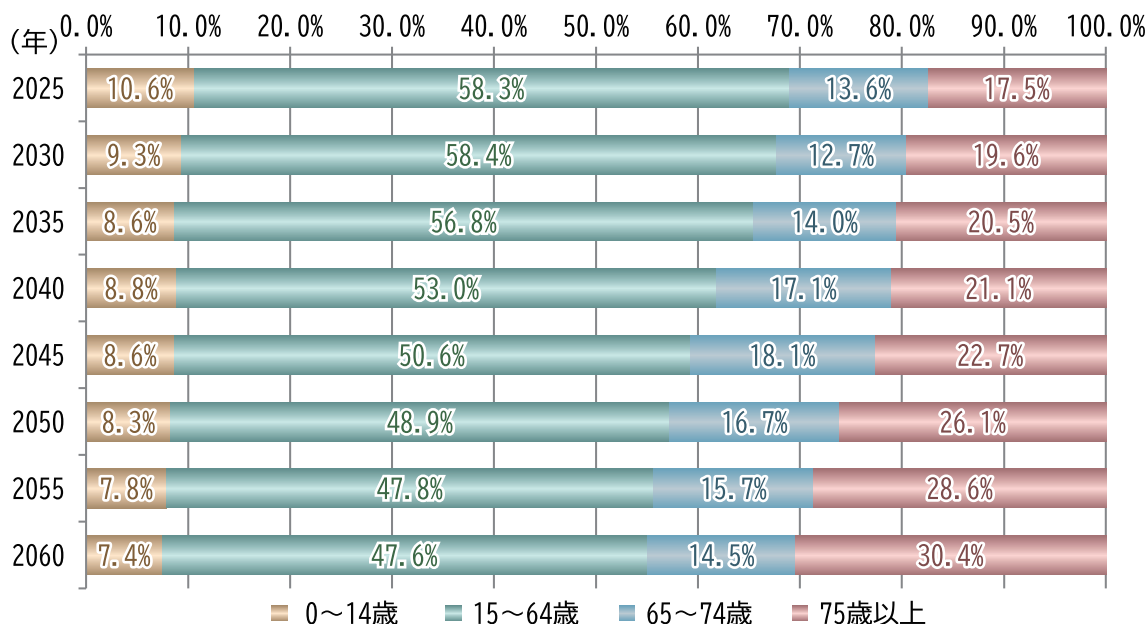
※社人研推計：「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」の推計結果

○ 年齢4階級別人口による将来の見通し



資料：2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は独自推計

## ○ 年齢4階級別人口構成による将来の見通し



資料：2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は独自推計

## (3) 目指すべき将来の方向

現状のままでは、本市人口は加速度的に減少していくことが見込まれるため、以下の視点から取組を推進することで、その速度を鈍化させていく必要があります。

## 1) 合計特殊出生率の低下を止める

## ■ 年齢を問わず結婚を選択しやすくする

本市の合計特殊出生率の低下は未婚化・晩婚化の影響が大きいことから、経済的理由等をはじめとする要因を解消していく

## 2) 転出超過を抑制する

## ■ 若い世代の転出を抑制する

10代後半や20代前半の転出が社会減の最大の要因となっているため、就労の選択肢を増やすとともに、シビックプライド醸成など定住を選択する理由をつくる

## ■ U I Jターンを選択しやすくする

減少傾向にある転入数に歯止めをかけるため、東京圏等からのU I Jターンや近隣市からの転入を選択できるように、住みたいと思える魅力的なまちづくりを推進する

## (4) 将来展望人口

## 純移動率改善により 2035年に約1,100人の人口減少抑制効果が創出

移動に関して、政策推進による仮説を設定し、将来人口の変動状況のシミュレーションを実施しました。具体的には、2050年の純移動率が改善し（39歳まで：2ポイント、40歳～69歳まで：1ポイント、70歳以上は0に収束）、その後維持することとしています。

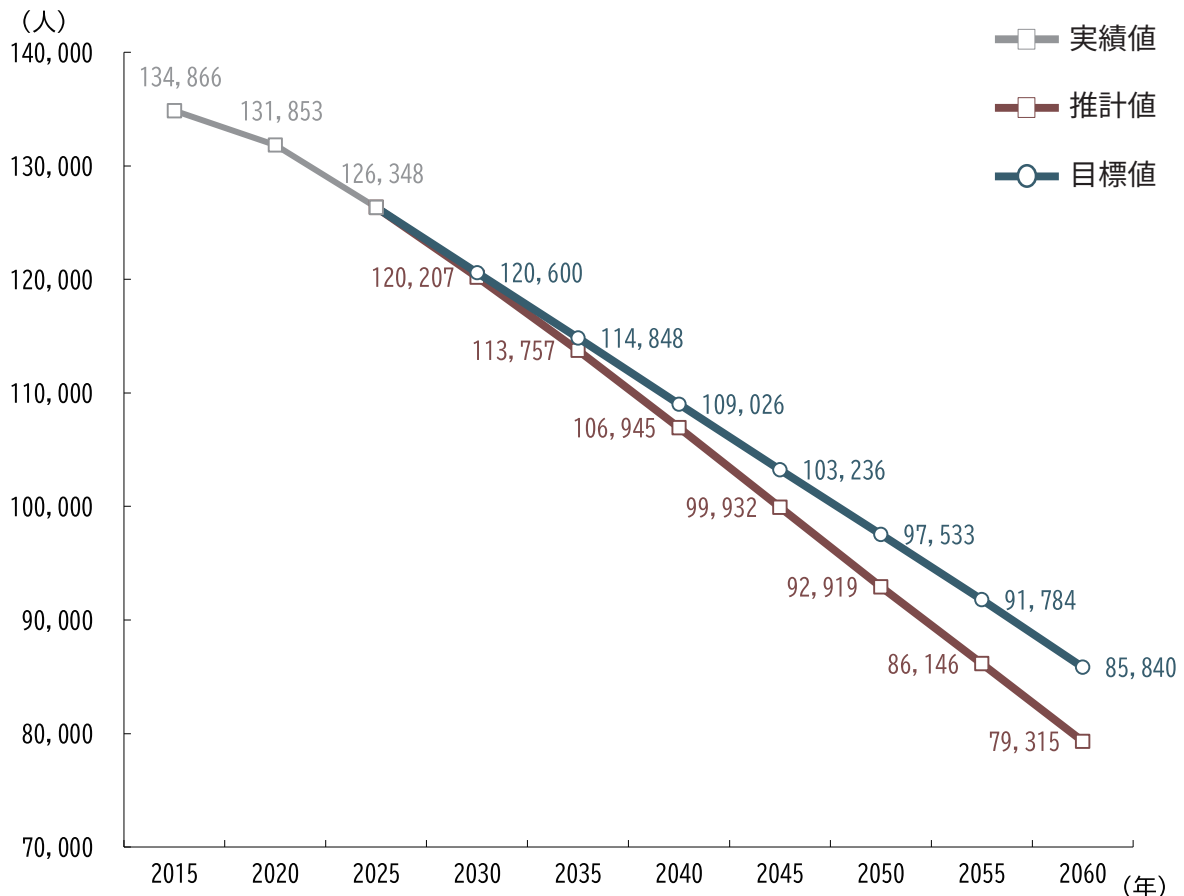
なお、総合計画策定に伴う政策推進効果による仮説であるため、2030年以降に効果が発揮されるものとしします。

## ○ 基準年（2025（令和7）年）における純移動率

	男性	女性
0～4歳 → 5～9歳	0.00171	0.00742
5～9歳 → 10～14歳	0.00028	-0.00381
10～14歳 → 15～19歳	-0.03733	-0.02225
15～19歳 → 20～24歳	-0.01676	-0.09701
20～24歳 → 25～29歳	0.00773	-0.09065
25～29歳 → 30～34歳	-0.03163	-0.05050
30～34歳 → 35～39歳	-0.01604	-0.00844
35～39歳 → 40～44歳	-0.00856	0.00305
40～44歳 → 45～49歳	0.00655	-0.00071
45～49歳 → 50～54歳	0.00182	-0.00651
50～54歳 → 55～59歳	0.00750	0.00729
55～59歳 → 60～64歳	0.01338	0.01497
60～64歳 → 65～69歳	0.01956	0.00593
65～69歳 → 70～74歳	0.01177	0.00859
70～74歳 → 75～79歳	-0.00131	0.00574
75～79歳 → 80～84歳	-0.01489	-0.00580
80～84歳 → 85～89歳	-0.00334	0.00137
85～89歳 → 90～94歳	-0.04886	-0.02939
90～94歳 → 95歳～	-0.05118	-0.12841

シミュレーション結果を見ると、2035年に約115,000人となり、約1,100人の減少抑制効果が生じます。

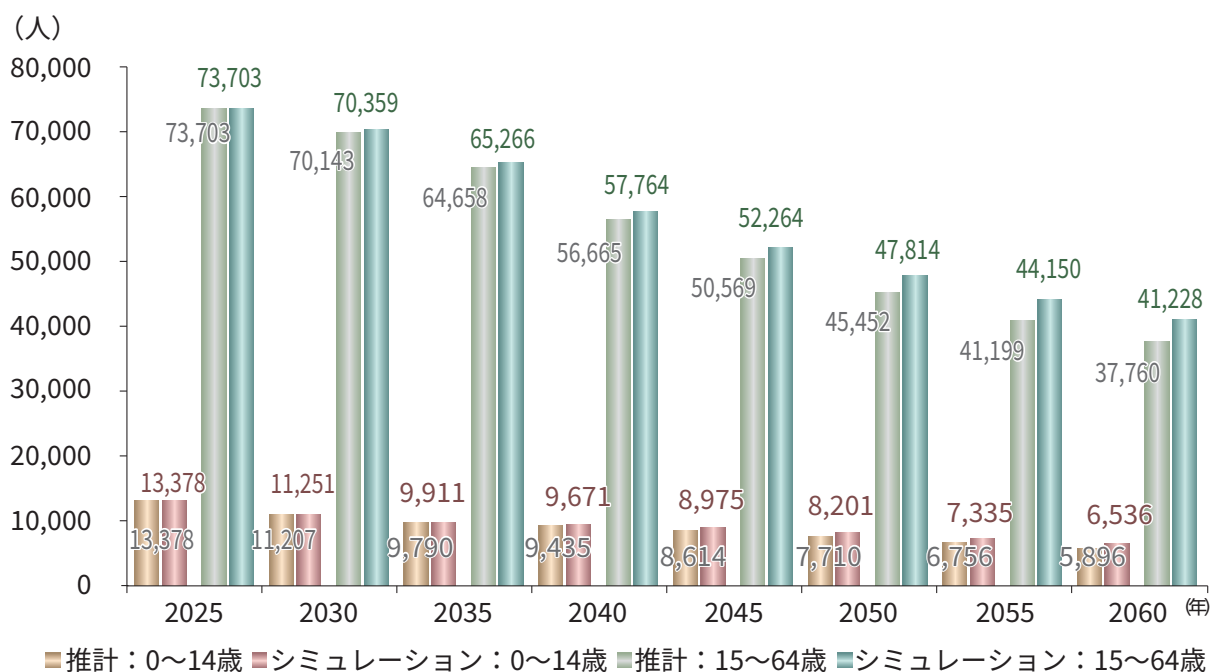
## ○ 将来人口のシミュレーション結果



シミュレーション結果について推計結果と比較すると、2025（令和7）年から35年の10年間にかけて0～14歳人口は約120人、15～64歳人口は約610人の減少抑制効果が生じることになります。

また、2060年までの35年間でみると、0～14歳人口は約640人で500人あまり増えていますが、15～64歳人口は約3,470人となり3,000人近く増えることとなり、より大きな効果が生じることになります。

### ○ 人口推計結果とシミュレーション結果の比較



シミュレーションによる効果について、以下のように整理できます。

### ○ 将来展望人口まとめ（2060年）

	現状のまま推移		仮説設定に基づくシミュレーション結果
総人口	約79,300人	転出超過の抑制 →	約85,800人 (+6,500人)
0～14歳	約5,900人		約6,500人 (+600人)
15～64歳	約37,800人		約41,200人 (+3,400人)